

第 5 號

昭和31年 1 月25日発行



発行所
高萩市役所
編集課
農林課
印刷所
藤枝印刷所

新年のごあいさつ

市助役 綿引倉藏

栄光と希望に輝く昭和三十一年の新春を迎え市民の皆様と共に国運の隆昌と光輝ある高萩市の前途を祝福申し上げます。
さて吾が高萩市は合併以来第二回目の新年でありまして其の間市民皆様の絶大なる建設的御協力と総協和によりまして市行政は積極的に飛躍し予期以上の成果を収めて合併の恩恵に浴しつゝありますことは御同慶の至りに御座います。その反面市財政はかなり苦しい状態に陥つてまいりました。本年もまた、昨年に引続き緊縮方針をとり健全財政の確立に努力しつゝ合併当初に決定宣言された高萩市建設計画に基き凡ゆる施策を推進して行かなければならぬ重大なる段階に立ち至つて居ると存じます。この秋に当り地方公務員として将又市民の公僕となる職員の信倚に奉仕する私共吏員は新春と共に更に覚悟を新にして紛骨砕身公僕としての職責を遂行したいと存じます。何卒市民の皆様におかれましては私共市民共々に御共々御指導を賜り且つ御慰問のない御叱咤と御垂教を御寄せ下さる様衷心より御願ひ致します。次に職員は御健康と御多幸とを御祈り致しまして新年の御挨拶と致します。私はここに主権が国民に在することを認める日本国憲法を尊重し且つ擁護することとを固く誓います。
私は地方自治の本旨を体するとともに公務を民主的且つ能率的に運営すべき責務を深く自覚し全体の奉仕者として誠実且つ公正に職務を執行することを堅く誓います。最後に恐縮ですが私の家庭訓を御紹介して御批判を仰ぎたい。
綿々千載香、神洲、引示万邦易、二万古、倉澤充、財積二美徳、歳、戈不、誇康二一家一

新春を迎へて

市議会副議長 小松正治

茲に昭和三十一年の新春を迎へ今年こそ幸多き一年である事を市民の皆様と共に祈り致します。年頭は期待の時であります。此の年頭に当りあえて拙文を送り皆様の御批判や御協力を仰ぎたいと存じます。
先づ第一に議員を皆様の眞の公僕たらしめよと申したい。市政に対する御気付の点、御要望をどしどし御指示願ひたいのです。どんな些細な事でも如何なる問題でも市発展のため、市民の福利増進のための御意見であるならばこれを各自議員は相携へ議會に持ち寄り市政とにらみ合せと探り出して行くのが民主的の御機嫌御利用を願つて止みません。
第二に市財政の確立により一層の御協力を願ひたいと存じます。税収入の見込なくして市財政の確立は期し得ないのであります。自治運営は行詰り、ひいては市民の皆様を發炭の苦しみに陥ち入らねばなりません。今一歩で眉く完全納税に御協力の程を衷心より御願ひ致します。
勿論今迄に市民の皆様は絶大なる御協力を得て居るのですが、「転ばぬ先の杖」と申します。敢えて愚見を申し上げる次第です。
第三に新生活運動に就いて一言申し上げたい、新生活運動とは自分自身の為にする事で、その実行を政府の権力によつたり、市の指導によつてもないかと思ひます。自分自身の心構え一つでやれる事で、要は勤儉質素の実践に外ならないと思ひます。戦争中及び戦後の苦しい体験を顧みれば実行は容易であると思ひます。新春の心構えとして、お互に運動を展開しようではありませんか。(三一、一一八記)

申年の新春に想う

沼田敏治

年が改まつたからとて天地が変るわけではないが、人の心が改まるのでめでたいのである。だから新年を迎えても、心に進歩がなかつたらこれを祝う意義がないといつても過言でないと思う。

今年は申年である。申は去るに通じるというので、婚礼その他に忌まれてゐる。また古来三猿主義といつて、見ざる、聞かざる、もの言わざる人が、奥ゆかしい人柄として尊ばれて来た向もある。しかし婚礼でも実家を出つて婚家に入ると解釈したら、きりうにも当るまいし、大いに見、進んで聞き語るべきときには十分語ることこそ民主的だといふものである。

日本の大多数は、大安日を吉日として、婚礼その他のめでた事の日を選び、佛滅の日を悪日としてきらい、特に友引の日には葬式を行わない。しかしこんなおかしい話はない大安日の日も多くの人が死亡し、火災その他の災害も起るし、また佛滅の日にもたくさんの子供が生まれ、大きな幸福も訪れる、大安、友引に結婚式を挙げても離婚するものが少くない。日そのものに吉凶がありそれが人生に必然的な影響を及ぼすものなら、こんな矛盾が起きようはずがないではあるまいか。

迷信は打破すべきものだ。しかし迷信打破は個人だけで解決できる問題ではなくて、社会的問題である。とはいへ、入学試験の日が悪いから受験しないとか、佛滅の日だから子供を修学旅行に参加させないとか、または大病で一刻も早く手術しなくてはならないとか、今日は佛滅だから、明日は入院させようなどということは聞かないし、悪日だからと例祭などの定つた日を延ばしはしないことなどから判断すれば、迷信を捨てることなどは、その氣にさえなれば、いと簡単なことではあるまいか。

新生活といふ生活改善のこと。結局己が心を改めることから出発することだ。よくも悪しくもなるものだから取りよう解釈のしようで、すべて積極的、建設的に解釈する善意をもつて、新生活を実践したいものである。今年を、善からぬこと、好ましくからぬことを去る。(申)年として改善に努め、やがて来年を良果を取り、(酉)の年として迎えようと思ふことを新生活運動としたら、こじつけだといつて物笑いの種になることだらうか。(市教育長)

生活改善は自信と

勇氣をもつて

生活改善が叫ばれてから少しづつ場所が改善されてきた。風呂場が改善されてきた。作業衣の作り方や料理講習会等にはみんなが関心をもつて集つて来るが、それを実際の生活に取り入れてあるのは、どれだけあるだろうか。

各家庭の実情に応じた身近な問題を取りあげ、誰にでも実行出来るようにと本紙を通して日常の生活に良い護化をもたらすための一つのキツカケとして努力しているが、従来の生活慣習から抜け切れるのはいつの日だろうか。

新生活運動がすみずみにまで徹底して従来の悪いしきたりを排除するには長い期間を要することは勿論であるが既に相当の成果を挙げている部落があるにも拘らず本市の生活改善はどうであろうか。

結婚にしろ、葬儀にしろ鎮守祭礼にしろ、年々派手になる傾向こそあれ改善出来ないのは、何れに原因しているのかを考えなければならぬ。

例えるならば生活改善とは高い階段を登るようなもので一歩一歩静かに登れば疲れもせずに目的地に着くことが出来るが、一気にかけ

上ろうとすれば、息切れがしたり、疲れてしまつて、途中で休んだりしなければならぬ。

またその階段を登る勇氣もなく、下から見上げてばかりいても、目的地は近づくて来るわけではない。

要は自分から進んで登ろうとする勇氣が必要である。自信をもつて、力強く一歩一歩登り始めれば、案外容易に登れることを知るであらう。

市民の誰もが旧弊を打破して新しい生活に切替へようと考えているものゝ実行出来なことは勇氣と決断力が欠けているのではないだろうか。

或る農村で、青少年の座談会に「農村の生活は何故向上発展しないか。一について話した。その際男性側から「農村の優秀な人達はほとんども都会に出て仕舞い、また婦人も同様に、向上心に燃え何事によらず、研究努力する位の人には、やっぱり都会に嫁いで仕舞う残つた人達は、あまり向上心もないから努力しようともしないから、何時までたつても発展しない」と。また女性側からは「現在の過重労働から解放されないかぎり、農村の発展は望まない」等が上げられた。そのことに對し「どのようになれば、向上発展が望めるか。」について「農業經營の改善を計る。」「家畜を導入し、勞力の軽減を計る。」「台所の改善を計る。等、合理的な生活設計を樹てれば、解決がつくのではないかと、ということであつた。何れも尤もな意見であり、最も大切なことであるのに何故これが実行されないか、そこにも問題があると思ふ。

農村に深くしみ込んでいる習慣、特に長い間の慣習と、貧困にいたためつづられ、近代的な生活からはおそおそきざりをつくつてい農家は「どうにもならない」と諦め「面白くない」とか「つまらない」とかいふながらも、昔ながらの生活をくり返しているものが多いのではなからうか。

冠婚葬祭の簡素化等は、誰しも望んでゐることなのに少しも簡素化するどころか、近頃はかえつて逆の現象が見られることは考えなければならぬことだらう。

家計に合つた計畫を樹て、豫算の範囲内で出来ることなら兎も角、最初から無理であることが解つていなが

ら、世間の風評や親類からの抗議を恐れ、実行出来ないのは自分をないものにしたい、ほんとうに情ない、姿ではなからうか。

このような習慣から抜け切るためには、いろいろの問題があるから先ず第一に勇氣が必要だと思ふ。

従来の慣習から脱却し、近代的な生活に近づくためには幾多の難關を、勇氣と自信をもつて突破すること

早急にほしい 中央公民館

金物店々主 神長 吉 衛

- である。
- 改善とは
- ① 新しく造ることではない、
 - ② 身近なところから一つ一つ整理すること、
 - ③ 自信と勇氣を持つて進むこと。
- これらのことが生活改善を推進させるものであることを信じ、お互に努力を続けよう。

昭和六年頃、東京新宿の高台にクリーム色の希望ビルが聳えていた。人呼んで「憩の家」と云ふ。その地下室浴場には温泉の様に湯水があふれ、食堂には赤い花が飾られてあつた。一階の講堂には映写設備があり、二階の日本間は結婚式や各種集會に利用され、夜は来訪者の寢室ともなつた。三階は図書室で、明るく窓ぎわに机が配置され、見晴しのよい屋上の小鳥小屋では青い小鳥達が楽しく歌つていた。

この「憩の家」は、隣人愛によつて 清く、正しく生きよつて建てる全国同志の献金によつて建てられたものであり、人々は人生の旅路に疲れた時も、悲しい時も、悩める時も、こゝをおとずれて心をいやし、希望

ある青年達は、この家を中心にして勉学にいそしみ、健全なる社交の場として向上した。こゝには教養が高く宗教心の強い男女委員が数名奉仕しており、どんな事でも相談に応じ、物心両面にわたる生活改善の指導はもとより、結婚の世話もしていたのである。

私の理想とする中央公民館とはこの様なものである。高萩市生活改善はこゝに始めての新春を迎え、いよいよ「実行の段階に突入した。私は本紙第二號と四號に於て、生活改善の本質的なものは「物心両面」にあることを強調したのであるがこれが実行面に於てはどうしても中央公民館の必要性を痛感するものである。現在市内各部落別の公民館が活動している様である

が、ブドウの枝はブドウの木につながれていなければ良い実を結ばないのと同様に、部落公民館は中央公民館につながつていなければ、豊かに実ること出来ないと思ふ。そのみならず、中央公民館なしでは、折角部落に芽生えた公民館活動の新芽を枯らすことにもなると思ふのである。

中央公民館と市民図書館の建設は、高萩市発足当時の公約事項でもあり、今その必要に迫られているのであるから、本年は是非とも実現して貰いたい。

この中央公民館と市民図書館は、交通便利なところを選んで二箇処に建設し、特に宿泊設備等もして利用価値を高め、その内容を充実して高萩市の文化センターとしたい。

高萩市の面目にかけて、日立市に負けない様、しっかりとやつて貰いたいのである。

建設費の豫算面に於ては不如意の点もあるが、昨年十一月議員に選ばれた三十名の市会議員と、教育委員四名の政治的手腕を結集すれば不可能なことはいふまでもないと思ふのである。

市議会に文化センター建設の熱意があれば、大高康生先生も、鈴木一司先生も傍観しないであらうし、市内の財閥も協力するであらうと確信する。

今年こそ高萩三万市民の要望にこたえ、文化向上のホームランを大空高くかつとばし、善良なる市民のえきプレゼントにしていたたい。

三一、一記

納税貯蓄組合の

設立勸奨について

市税務課長 川 井 光

現在の地方公共団体の財政は極度に逼迫しておりま

これが原因については色々あると思われるが、なんといつても戦後の地方自治の確立に伴い各種の行政事務が増大しこれに対する財源が伴わないところにあると思われま

今これに対処するため地方財政の根本的な改革が行われようとしているところでありますが先ずもつてこれが解決策として租税の完全徴収が第一要件であると思われま

こゝに高萩市の現状を見ますときに歳入予算面において総額一億三千万円に対して市税収入は五千百万円でありまして、約四〇パーセントを占めておるわけでありま

この収入の大半を占める税収入が確保されるか否かは、大いに市民の福祉が増大されるか否かにかゝつてくるわけでありま

市民各位の御理解の下に徴税成績も逐次上昇しつゝあるとは申しながら未だ相当の滞納金のあることは誠に遺憾と存ずるところであります

市当局としてはこれを放つておくわけにはいかないの

で、徴税吏員をして年末徴税攻勢とか、徴税月間とかの掛声もよろしく滞納者の家々を戸別訪問して徴収してゆくわけでありましたが、いくら徴収しても後から後から滞納ができて来たのでは、なんにもならないのであります

そこで、これから滞納を出さない方法の一つとして納税組合を組織することが一番であると思われま

国民の義務としてどうせ納めなければならぬ税金でありますなら泣いて、納め苦しんで納めるよりも楽な気持ちで納めた方がどんなに

恒例の市消防団出初式が午前九時から挙行された

参加団員五百余名消防自動車五台、手曳ガソリンポンプ一台、可搬動力ポンプ九台、腕用二台が市内を行進、市役所前で消防長(市長)の分列閲団を行つた後、旭町公園に於て勇壮な放水試験を行ない盛観裡に正午終了した

△一月十五日

十時より高萩高校講堂で鈴木県会議員、市会議員、小松副議長、教育委員、社会教育委員其他来賓多数参列の上、本市の成人

得策であるかはゆうまでもありません

この笑つていかも楽な気持ちで納めるために納税組合が必要だと思ひます

市は納税組合を勧奨してお

りま

この組合の組織によつて納税者の利益ともなりますので、この際是非納税組合を組織されるよう切望する次第であります

りま

この組合の組織によつて納税者の利益ともなりますので、この際是非納税組合を組織されるよう切望する次第であります

りま

この組合の組織によつて納税者の利益ともなりますので、この際是非納税組合を組織されるよう切望する次第であります

りま

この組合の組織によつて納税者の利益ともなりますので、この際是非納税組合を組織されるよう切望する次第であります

りま

この組合の組織によつて納税者の利益ともなりますので、この際是非納税組合を組織されるよう切望する次第であります

りま

この組合の組織によつて納税者の利益ともなりますので、この際是非納税組合を組織されるよう切望する次第であります

りま

今月の納税は

◆市民税 第4期

納期は……1月31日限りです

お忘れなく納入願ひます。

◆納税でその橋、この道、あの學校

昨今の行事

△一月一日

市制第二回目の新年を迎え新年の祝賀を兼ねた名刺交換会が正午より高萩中学校講堂で大高代議員を初め鈴木県会議員ほか市内の名士多数が参加して盛大に行なはれた

△一月十二日

恒例の市消防団出初式が午前九時から挙行された

参加団員五百余名消防自動車五台、手曳ガソリンポンプ一台、可搬動力ポンプ九台、腕用二台が市内を行進、市役所前で消防長(市長)の分列閲団を行つた後、旭町公園に於て勇壮な放水試験を行ない盛観裡に正午終了した

△一月十五日

十時より高萩高校講堂で鈴木県会議員、市会議員、小松副議長、教育委員、社会教育委員其他来賓多数参列の上、本市の成人

りま

家の重要な式典でもある。十代に別れを告げ彼風烈しい大人の世界に乗り出す門出でもある今日の成人を迎えた若人達も深い感慨と新たな決意と希望に躍動されたことだろう。さん／＼と降りそぐ太陽の光のように、熱意と実力をもつてどしどし前進し得るものは少年でも老人でもなくあなた方青年である

力となつて戴きたい。終生今日の感激を忘れず健全な良識の持主であれかしと願ひものである

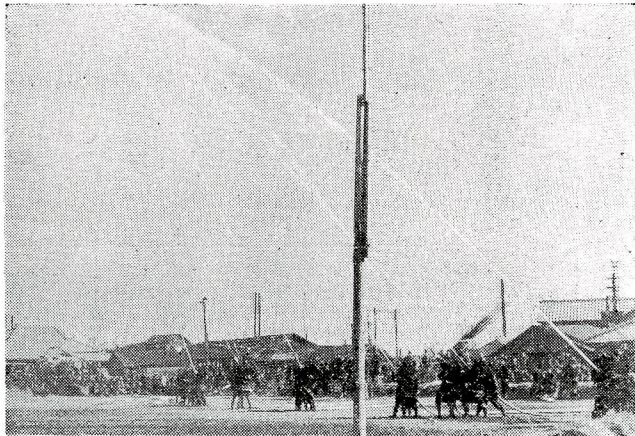
明るい生活の設計を

家計簿は家計の鏡です。気付かずにすごしむだがどこにあつたか、節約のメスをどこに入れるべきかを率直に教えてくれます。家計のむだを省いて貯蓄を生みだし、より合理的な暮らしを打立て、ゆくには、家計簿を活用するのが一番近道です

者五百四十名を迎えて厳肅に成人式が挙行された。成人の日個人の式典であると同時に明日の日本を担う若人をはげます国

健康な体と明るい心で一生懸命働き、つゝましい生活を續けてゆくところから、「明るい生活」への道が開かれてゆきます。いつも備えのある生活をしてゆくことは、自分自身のためのみならず同時に社会に対する責任でありましよう。むだや虚栄のない生活をなさる方々が多くなれば、それだけ社会も明るくなり、市もまた家庭も豊かになります。市民の皆様、鏡に自分の姿をうつすように、家計簿にうつして、「明るい生活」への道しるべをいたしましよ

将来のさらに希望に満ちたより良い生活への道を一步一步と力強くお進みになるよう心から折つて止みません。(編集部)



高萩市消防団出初式(放水試験)



心のダイヤル

◎人間は人間らしい暮らしをする事が望ましい事である。うまでもないが、この道理が「人たるに値する生活」という表現で法律

の中で定められたのは、日本では昭和二十二年四月のことである。

戦後出来た種々の新しい制度の中でも、白眉とも云べきもので新憲法に「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と、うたがっている。政府がこのようにうたつたからには、政府が其の責任を持つのは勿論のこと、民主政治では国民の代表である議会が憲法を作るのであるから国民全体の責任でもあるわけである。

さて、「人たるに値する生活」とはどんな事であろうか、私は国民の一人一人に職業があつて、その仕事に適当な報酬があり、休息があつて、健康が保たれ、精神的にも、物質的にも文化的な明るい生活をする事だと思ふ。

「人たるに値する生活」を営むには、なんと言つても経済で、この経済の基礎を作るのは国で云えば政府の力であり、家庭を豊かにす

るの一人一人の努力でなければならぬ。我が高萩市民は努力と智慧をしぼりこの経済の基礎を作り速かに生活改善を致したいと考えるものである。

(上手綱千代田佐々繁雄)

◎ 尋ねるのがどうしても見つからなかった。見つけなくてはならないのだが、見つからないのだから仕方がなかった。三度、四度、五度！やはり駄目だった。

諦めて、がつかりして……しかし彼はもう一度立ち上つた。そしてもう一度！そして見つかった。

ああ「もう一度！」「見つかった喜びよりも、もつと強く感じるものがある。それは「もう一度よく立つたな」ということであつた。立たなかつたら？それを考えるのゾツとする。

人生は「もう一度！」「だ、立つことだ、そこに奇蹟が行われる。そして「もう一度！」に最後は無い。

◎ 勉強でも、健康でも、事業でも、旅行でも、何一つの苦勞なしに行はれるならば、この上なしの幸福である。しかしドン底に落ち込んで、願いを捨てず、愛を捨てず、希望を捨てず、ただ一筋にその方向に進んで止まない生活も決して不幸なものではない。

金持ちの幸福、順調の幸福それはもう解り切つた幸福だ。しかしその裏の貧乏と

か不健康とか道徳とか、そればならない。幸福がなければならぬ。人間は幸福感なしには生きていられないからである。隠れているなら探そう。埋まっているなら掘り出そう。無いと云うなら創ろう。この場合、大事なこととは「真実の心に聴け」と云うことであり、いのち本来の要求に背いてはならないことだ。

捨て鉢になつたり、反逆児になつたりすることは悪いことだ。自己のいのちは自分自らこれを護ることが一番大事なことだ。

その日は来、その日は来、また次の日は来よう。遊んでいても、仿いていても、泣いても、笑つても、悩んでも日は来るし、行く日は行く。

わたくし達は健康なる意志の上に、明るく感情で生きることがを念願するものである。

回顧と決意

去つて行く年を回顧すれば誰しも言い知れぬ寂寥と感傷が残るもの。もし去つて行く年を回顧してこのような気持ちの起らないとしたら、それは一年というものの自分の過去に対する意義を捉えない人です。

新しい年の始めにはどのような人でも、本年こそはという何等かの新しい希望に燃えていた筈です。それは或る目的を求めてそれを完成させようとして努力を誓つたか、さもなければそのような具体的なものを求めはしなかつたけれど、平凡なことのようにあ

るけれども正しい人間として、美しい年を送ろうとして、いよいよ消極的にもせよ一つの決意を起していることにはある筈です。

このような努力の誓いなり決意が僅か一年の間にどこかへ消え去つてしまつて、

所詮今年も駄目であつたと途中で一切を捨て、しまつたり、或は稀には何等かの心の誓いをしなかつたような人々には過ぎ去る年を見送るに当つても、何の寂寥も感傷も生れては来ないのです。

一年、それは極めて短いようであるけれども、有限の人生にとつては尊い期間であるべき筈です。この尊い期間の終りを見詰め、過ぎ去つて行くこの間に言い知れぬ寂寥と感傷を持つことが出来る人、この人のような人生こそ深い意義を持つのです。過ぎ去つて行く年を静かにふりかえり、そぞろ物想ひにふける人、それは決して涙によつて自己を慰め、自己を偽装しようとする人ではないのです。ほんとに涙のにじみ出る淋しさと、悲しさを味う人こそ、来るべき新しい年に

更に人生を一步飛躍せしめることの出来る人でありま

す。昭和三十年という年のいろ／＼の出来事を振り返つて見るとそれは多事の年でもあり多難な年でもあつたと云へるのです。けれども私達はただ徒らなるジャナリクに物事を見るべきではないと思ふのです。

いつの年においても多くの事柄は現象的に起るものであります。もとより年々歳々多くの出来事が起り得べくして起り得た当然のことであつて、起さずにすむべき多くの事柄もあつたであらうと思ふのです。もとよりこうした出来事は、来るべき年には避けられるだけ避けるように心掛けて行かなければならぬのです。私達は今のやうなことを考へながら、その反面において自らの人生の成長ということについて考へなければならぬと思ひます。終生成就至難と考えて自らを捨てしまへばそれまでのことであるかも知れないが、無限の距離を持つ人間の歴史に、自己を一步も前進せしめようとする人の努力、これほど世の中に崇高にして意義深き人生はないと思ふのです。私達は去り行く年に深い寂寥と多くの感傷を持つものです。



○神長吉衛氏公民館に対する見解は堂々たる所論傾聴に値すること大なるものがあると考えられる。

◎原子力という新しい科学によつて人類は新しい革命に直面している。革命とは生命的な改革のことである。この生命の活動のさまたけを生活というのであるから、革命は生活の改革を意味する。この生活の改革とは生活の安全性を高めるといふことである。

生活の安全性とは、とりもなおさず冗費を省いて生活に余裕をつくる、その余裕を文化面に娛樂面に或は生命源として又、勞働源としての食生活の改善に振り向けることである。

ところが、わたくしたちの生活の現実はどうであらうか……。

生活程度は低くとも、日本人は日本人なりに、分に応じた生活の革命に参加出来る筈である。

新春の陽光のもとにあつて、水爆実験の谷間にあればあるほど生活の革命(新生活)に参加し、世界の中で充分誇り得る国民としてまた、平和な暮らしよい国土を築きあげるよう努力しなければならぬ。

新春と共に各位の御多幸と御健闘を祈る。

(農林課 Y T)